

# 京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



私たちは、医療福祉施設を中心に設計を行っています。クライアントの想いを叶え、それが社会貢献につながる設計を目指しています。

医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。

株式会社 京都建築事務所  
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町 10 番地  
TEL:075-211-7277 FAX:075-211-7270  
<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



生活困窮者支援に注目されがちなフードバンク、格差や食品ロスの根っこはどこだ？ 食品ロス、廃棄の発生状況、削減アクションなどの基本がわかる「知る、動く、広げる」人、必携の入門書。

A5判154頁 定価1800円＋税

全国食品ロス削減研究会

編著  
糸山智栄・今村主税・  
土手政幸・難波江江・  
原田佳子



フードバンク活動入門  
瀬戸内食品ロス削減団

て挑んだ、作業療法士が全世代が活躍する街を作る話。

地域サロン、コワーキングスペース、シェアハウス、地域食堂、グループホーム。徒歩2分圏内に6軒の空き家を活用して挑んだ、作業療法士が全世代が活躍する街を作る話。

ごちやませで  
社会は変えられる  
地域づくりとビジネスの話  
一般社団法人えんがお  
濱野将行 / 著  
A5判258頁  
定価1800円＋税

問題にしてはいけない。

子ども・若者ケアラーが生きやすい社会への転換の方向性を、当事者の声から考察。「ケア」を個人の人生の

子ども・若者ケアラーが生きやすい社会への転換の方向性を、当事者の声から考察。「ケア」を個人の人生の

子ども・若者ケアラーが生きやすい社会への転換の方向性を、当事者の声から考察。「ケア」を個人の人生の

子ども・若者ケアラーが生きやすい社会への転換の方向性を、当事者の声から考察。「ケア」を個人の人生の

子ども・若者ケアラーの  
声からはじまる



A5判246頁  
定価2000円＋税



クリエイツかもがわ  
CREATES KAMOGAWA

〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町21 <https://www.create-k.co.jp>  
TEL 075(661)5741 FAX 075(693)6605 送料240円(5000円以上無料)

# 障害者グループホームで感染拡大 なかまと職員のいのちとくらしを守るために、 早急な対応を!



特に感染力の強いオミクロン株が流行した第6波と言われる感染拡大のなかで、障害のある人たちが共同生活をおこなうグループホームが、深刻な状況に陥っている。障害のある人たちのなかには、マスクを24時間着用しつづけることや隔離対応がむずかしい方も多い。陽性者が発生するとホーム全体をレッドゾーンとして対応せざるを得ない。陽性や濃厚接触者となりご家族のもとに帰って療養できる方もいるが、グループホームで療養生活をつづけざるを得ず、職員が対応しなければならない場合も多い。



大阪福祉事業財団すみれ共同作業所でも、複数のグループホームで陽性者の対応をおこなった。あるホームでは、利用者5名中3名が医療機関にて陽性判定、1名がみなし陽性となった。3月1日から10日までの10日間は、9時～16時、16時～21時、21時～9時の3交代で、職員3名が24時間の支援にあたった。2名の職員はホテルに10日間滞在しながら緊急時の対応に備えた。



陽性者の体調確認は、防護服などを着用の上対応。直接的な利用者支援のほか、利用者が触れる箇所などはつねに消毒処置をおこなう、利用者の部屋は1時間に一度、リビングは常時換気をおこなうなど、すべてのことを、すべて一人に対応せざるを得ない状況が続く。



38.7度の熱、ゼーゼーと息も荒く、パルスオキシメーターの数値が90となったなかまがいたため、入院できる病院を探した。しかし、熱が高いことや診察券をもっていないことなどを理由にいくつもの病院に断られたため、救急搬送を要請。救急隊が保健所に連絡したが、89をきらないと入院の対象とはならないと言われ、搬送にはつながらなかった。

(写真・文、すみれ共同作業所)

※障害者施設の実態については、トピックス (P.38～39) でも紹介しています。

●特集● 子どもの尊厳を保障すること

子どもを守るために、親を守り支えられる社会に	大澤 優紀	12
選択のきっかけや機会を増やしてほしい	嶋坂 倫成	16
何気ない時間が信頼関係を育む	高木 春花	19
【明石市長 泉房穂さんインタビュー】		
こどもを核としたまちづくりが、みんなをしあわせにする		22
ねがいが実感に——インタビューをおえて——	丹波 史紀	31

●トピックス●

【PHOTO】 社会福祉法人野のちから		32
これではまるでペテン！ 岸田政権の「介護職員賃金改善」		
	日下部雅喜	34
障害事業所の実態に早急に対応を！		
2か月で150名が感染、7000万円の損失		38
第5回陸前高田学校のご案内		40
第35回社会科学・社会福祉基礎講座のご案内		42

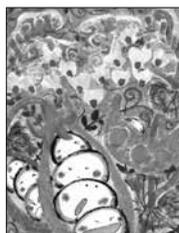
●連載●

WORK WORK——わくワク——		
地域密着 手づくりのタッピークッキー さっぽろひかり福祉会光ファクトリー		46
ミリタンが実現するフランスの福祉		
若者が自分の人生を築くことができる社会	安發 明子	48
かさねあい、はぐくみあう保育実践		
話すって大事！ 話したくなる職員関係を！	古川 佳那	50
夕映えのとき～人生の終え方を支える実践～		
「地域の中で手をつなぎあうケア」の可能性を見つけるために		
	山村多恵子・久國 康子	54
JOB & ACTION 全国福祉保育労働組合 (14)		
なくせワンオペ！～グループホームの夜間体制問題～		58
私の履歴書 社会福祉経営全国会議 (14)		
いま、「共同」することをさらに	岸 清江	60
阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎 (34)	水野阿修羅	62
相談室の窓から		
誕生した自我の充実を支えるもの①	青木 道忠	64
育つ風景		
言うことを聞かない子どもが教えてくれたこと	清水 玲子	66
ひととしてあたりまえに生きたい		
施設建設委員長として (9)	清田 廣	68
映画案内 『八重子のハミング』		
現代の貧困を訪ねて あいりん総合センターでの4人の路上死	吉村 英夫	70
似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート	生田 武志	72
超美人は超むずかしいのじゃ！②	ラッキー植松	74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜	76
花咲け！ 男やもめ	川口モトコ	77

福祉のひろば

2022年5月号

●表紙の絵●  
神門やす子



# 高齢者福祉の仕事に よろこびと希望を

社会福祉法人七野会理事長 井上 ひろみ

高齢者福祉の仕事をはじめて、今年で三四年目を迎えています。

大学卒業をひかえたある日、「老人福祉の仕事をする」と友人に話すと、「どうして老人福祉なの？ 子どもや障害者(の福祉)なら将来の希望があるけれど」と言われました。特別養護老人ホームでアルバイトをし、「やりたい仕事はこれだ」と確信していた私でしたが、「お年寄りといえることが好きだから……」と答えることしかできませんでした。折に触れて、あの時の友人の言葉に今なら何と答えるだろう、と自分に問いかけながら仕事をつづけてきました。

「高齢者福祉の仕事をしている」というと、「若いのにえらいね」と言われることが多かったのですが、四〇代が近づいたころから言われなくなりました。なぜでしょう。いわゆる3Kの仕事だから？ 「希望がもてない」仕事だから？ 若い人がする仕事ではないから？……いろいろ考えてしまいます。

「若い人がする仕事ではない」「希望がもてない」と言われる要因の一つは、看取り期のケアのイメージが強い、というより強すぎるからでしょうか。たしかに、悲しい別れに出会う機会はほかの仕事より多いです。だからこそ、最期のときまでできるだけ願いに沿いたい、との思いを強くもっています。

けれど、当然のことですが、高齢者福祉の対象は看取り期(広い狭いを含め)の方だけではありません。病気や障害、痛み、生活のしづらさを抱えながらも、生き活きと、または葛藤したりもがいたりしながら、「今」を生きておられる対象者本人、介護されている家族などです。そのエネルギーや歩んでこられた道のりに、圧倒されたり振り回されたり、ときにはただそばにいることしかできないこともあります。自分の不甲斐な



## いのうえ ひろみ

高齢者福祉施設の介護職・ヘルパー・ケアマネジャーなどを経て、2016年より現職。2021年より21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会事務局長。

さに落ち込んでしまうこともあります。ですが、看取り期でもそうでなくても、対象者や家族一人ひとりの唯一無二の人生が尊厳あるものであるように、そばにいたり支えに  
なったりすることができなのが高齢者福祉の仕事であり、ここに私はよろこびと希望を  
感じてつづけてきたのだと思います。

「希望がもてない」と言われるもう一つの要因は、現在の福祉・介護従事者の労働環  
境や待遇面にあるでしょう。介護は本来家庭で担うもので、中高年層の女性の仕事、非  
正規の仕事というイメージが根強く残っています。また、雇用形態や賃金はその役割に  
まったく見合わない実態にあります。悲しいですが、そう言いたくなるのも無理もあり  
ません。

対象者や介護家族の尊厳ある暮らしが日本のどこでも実現し、そのことを願って働く  
職員が希望とやりがいを感じて安心して働けるようにするために、権利としての高齢  
者福祉を守り向上させることがどうしても必要です。全国のみなさんと一緒に学び、行  
動することそのものにも、いま私は福祉の仕事のよろこびと希望を感じているところ  
です。

私は日頃から「一〇〇歳まで生きて、利用する側から五〇年後の高齢者福祉を見てみ  
たい」と話しています。願いが叶うかどうかわかりませんが、健康に気をつけて、次の  
世代に希望のバトンが渡せるように、三四年目の高齢者福祉人生をしっかりと歩みたいと  
思います。

ということ、エネルギーあふれる高齢者へのねばり強い支援の実際——今月号の連  
載「夕映えのとき」もぜひお読みください！

## 子どもの尊厳を保障するようになり

毎年「子ども」にかかわる特集にとりくんでいる五月号。今年も、「子どもの尊厳を保障する」ということをテーマに、特集1として、児童養護施設二葉学園の卒園児・在園児・職員さんのお話を、特集2として、「子どもを核としたまちづくり」で全国から注目をあつめている兵庫県明石市の泉市長のお話を紹介します。

二〇〇〇年に児童虐待防止法が制定され、「子どもの貧困」という言葉がひろがり、二〇一三年に子どもの貧困対策法（子どもの貧困対策の推進に関する法律）が制定されて子ども食堂や学習支援が広がるなど、子どもに関するさまざまな施策やとりくみが広がってきています。しかしいっぽうで、児童相談所での児童虐待相談対応件数は毎年過去最高を記録し、二〇二〇年度には二〇万五〇二九件に達しました。二〇〇〇年の一一・五倍です。

こうした状況に対応するとして、政府は四月四日、虐待対応や家庭支援に高い専門性をもつ新しい認定資格の創設や、妊産婦や子育て世帯の相談を受ける「子ども家庭センター」の設置を市区町村の努力義務とすることなどを盛りこんだ、児童福祉法などの改正案を閣議決定しました。

こうした対策が講じられることは大切だと思います。ですが、根本的に向き合うべきは、日本社会の子どもや子育てに対する考え方ではないでしょうか。今号の連載「ミリタンが実現するフランスの福祉」で筆者の安發<sup>あわ</sup>さんは、「フランスでは子どもの育ちについて、『自分を知り』『自分の人生を築く』という表現がよくされる」と紹介しています。安發さんの連載にはいつもハッとさせられますが、今号も、この言葉がずっと胸に残っています。

自分を知り、自分の人生を築く。大人や社会は、子どもが自分を知り、自分の人生を築けることをサポートする。それはまさに、「子どもの尊厳を保障する」ということではないでしょうか。「自分を知る」ということは、自問自答していればできることではありません。人とのコミュニケーションやたくさんの経験、さまざまなことを自分の意思で選択できる日々を重ねることで、自分の好きなこと、得意なこと、苦手なこと、やってみたいことが見えてくるはずです。

そのためには、大人や社会にゆとりも不可欠です。子育てをしていていつも思いますが、自分に余裕があるときは、「あなたはどうしたい？ どれがいい？」と娘の意思を尊重できますが、自分に余裕がないときは、「こうしなさい。これにしなさい」と強制したり、コントロールしようとしてしまいます。大人がゆとりをもつためには、経済的な安心や相談できる人がいる安心、福祉職においては、一人ひとりと向き合い寄り添える仕事のゆとりが不可欠です。自分の意思や選択、尊厳が保障されたという子どもたちの経験は、障害のある人、お年寄り、すべての人の尊厳を保障することに、かならずつながると思います。

(編集主任)